

全国理美容開業ランキング レポート ver2

＜調査方法＞
行政からの開業情報をもとに、
Review独自のクレンジングをおこなったデータより算出

株式会社Reviewは「人」と「IT」のチカラを組み合わせ、全国の店舗データおよび法人データを独自で、収集・整備・提供しているデータプロバイダーです。

日々データを更新、圧倒的な網羅性とリアルタイム性がございます。
そんな弊社ならではの、全国の理美容店に関する調査結果を発表いたします。

理美容開業ランキング 2024年7月～9月

理美容開業全国TOP5	…P4
全国47都道府県 理美容開業数順位	…P5
変わる理美容の独立モデル 減少する開業数の裏側	…P6-7
減る開業、変わる働き方。理美容業界の背景に迫る	
男性も“美”を選ぶ時代、メンズ美容の今とこれから	…P8

理容・美容開業数半年比較～地方開業の隠れた魅力～

全国の理美容店開業数の半年での変化	…P10
減少トレンドの裏で、数字に隠れた開業の動き	
増加の理由はどこに？ 開業数が伸びた地域の共通点	…P11
「地元で始める」が選ばれる時代に	…P12-13
地方でのんびり自分らしく。広がる新しい働き方	…P14

理容所・美容所別の半年での変化～データに見る地域のリアル～

理美容業別開業数と理容所割合の半年での変化	…P16
地方で進む“理容所回帰”の背景	…P17
地方で理容所の割合が増えている理由	…P18

全国理美容開業レポート ver2 まとめ

データだけでは見えない選ばれる働き方、キャリアが広がる時代に	…P20
ー 開業数は減っても、理・美容師の選択肢は減っていない ー	…P21

理容・美容開業ランキング 2024年7月～9月

er til target hår som beg-
glens. Græsstillemaner
plukket som aggrerid
1/4-erling samt fra re-

erhænges for targetfor-
struktur og tiller glans.
den reducerer targetfor-
styring, og beskytter håret

er hair that rebuilds and
sulfates and proteins.
regime protect hair and re-
ding, hair styling, 1/4 rep-

ten is parabenfree con-
tion. Græsstillemaner
halskransestil på den
skala 1/4-erling til 1/4

理美容開業全国TOP5



メンズ特化、美容×SNS、フリーランス化——

近年、理美容業界では消費者ニーズやライフスタイルの多様化を背景に、業態・サービスの形が大きく変化しています。

本レポートでは、2024年7月～9月における全国の理美容店舗の開業動向に注目し、地域差・業態別傾向・注目トレンドをもとに市場の”今”を読み解きます。

2024年7月～9月の全国理美容店開業数ランキングを発表いたします。
トップ5には、以下の都道府県がランクインしています。



1位 東京都(228件)

高単価サロンからフリーランス特化型、インバウンド対応型まで、競争とトレンドが共存する都市。



2位 大阪府(142件)

キタ・ミナミ・郊外でエリア特性が異なり、ニーズに応じた業態が定着しメンズやSNS発信型の開業が活発。



3位 愛知県(85件)

都市圏と住宅地のバランスがよく、安定した経営志向の開業。郊外のファミリー向けサロンが多数出店。



4位 神奈川県(84件)

東京近郊の利便性と観光・住宅エリアの共存により、出店業態は幅広い。



5位 北海道(71件)

札幌を中心に地域密着型の出店が多く、面積が広くゆとりある店舗設計が可能。

全国47都道府県 理美容開業数ランキング

2024年7月～9月の全国の理美容開業数ランキングは以下のような結果となりました。

2024年7月～9月 全国開業件数 1,518件

2024年7月～9月			
都道府県	開業数		
全国ALL	1,518	24 宮崎県	18
1 東京都	228	25 大分県	16
2 大阪府	142	26 群馬県	15
3 愛知県	85	27 香川県	15
4 神奈川県	84	28 青森県	15
5 北海道	71	29 長崎県	14
6 埼玉県	69	30 滋賀県	14
7 兵庫県	68	31 奈良県	13
8 福岡県	52	32 三重県	13
9 千葉県	43	33 福島県	12
10 静岡県	43	34 山口県	12
11 沖縄県	36	35 島根県	12
12 岐阜県	35	36 和歌山県	10
13 宮城県	31	37 山形県	10
14 京都府	30	38 福井県	10
15 長野県	30	39 徳島県	10
16 鹿児島県	28	40 熊本県	10
17 栃木県	28	41 鳥取県	10
18 茨城県	25	42 愛媛県	10
19 広島県	24	43 佐賀県	9
20 岡山県	24	44 岩手県	8
21 新潟県	24	45 秋田県	7
22 石川県	23	46 高知県	6
23 富山県	21	47 山梨県	5

都道府県別開業数では、1位東京都(228件)、2位大阪府(142件)、3位愛知県(85件)が、引き続き上位を占める一方、北海道(71件)が5位にランクインし存在感を強めています。これは、観光需要や移住支援制度の活用も開業を後押しし、地方圏での出店が活発化していることがうかがえます。

変わる理美容の独立モデル 減少する開業数の裏側

2024年7月～9月の全国の理美容開業数は1,518件。

前期(2024年4月～6月)の3ヶ月間の開業数が1,746件だったことから、今回は228件減少していることが判明しました。

減る開業、変わる働き方。理美容業界の背景に迫る

1,店舗を持たない働き方～フリーランス化・シェアサロンの増加～

近年、美容師の間では「面貸し(シェアサロン)」や「業務委託型」での働き方が急増しており、従来のように自分の店舗を構えて独立するスタイルは減少傾向にあります。

特に都心部では、ミニマムな初期投資で始められる形態が主流となりつつあり、“独立＝開業”という定義そのものが変わりつつあると言えます。

【変化のポイント】

- ・固定費のかかる店舗開業を避け、柔軟な働き方を選ぶ傾向が強まっている。
- ・SNSや予約アプリなどを活用し、個人ブランドで勝負する美容師が増えている。

2,専門特化型サロンの台頭と開業の難易度上昇

メンズ特化・白髪ぼかし・パーソナルカラー診断など、ニーズに応じた小規模かつ専門性の高いサロンが既に市場に多数存在しています。

そのため、新規開業によるニッチな市場の獲得は難しくなりつつあり、「まずは業態特化のサロンに所属して経験を積む」という選択をする美容師が増えています。

【変化のポイント】

- ・「独立＝開業」ではなく、「まずは特化サロンでスキルを磨く」キャリア選択が主流化しつつある。
- ・ニッチな領域の“空き”が少なく、差別化の難易度が上昇している。



変わる理美容の独立モデル 減少する開業数の裏側

3,人材不足と採用難による「開業のリスク増」

美容業界では人材不足と採用難が開業の大きなリスク要因となっています。特に若手美容師の数が年々減少しており、「開業してもスタッフが集まらない」という課題が深刻化しています。そのため、採用できずに一人サロン化 → 拡大困難 → 開業控えという流れが定着しつつあります。人を雇ってサロンを運営する前提自体が揺らいでいると考えられます。

【変化のポイント】

- ・開業＝雇用前提という常識を避け、「一人でやる方が現実的」という風潮になりつつある。
- ・安定した人材確保が困難になり、開業そのもののハードルが上がっている。

4,競争過多と価格崩壊による「開業後の不安」

サロン数が飽和状態にある現在、新規開業しても競合との価格競争に巻き込まれるリスクが高まっています。特にホットペッパーなどの予約サイトを使った集客では、クーポン合戦によって利益率が圧迫される傾向にあり、広告費や割引施策が“必要コスト”として重くのしかかっていると考えられます。また、個人開業者は集客・広告・施術・経営までを一人で抱える必要があり、負担が非常に大きいと言えます。

【変化のポイント】

- ・「開業してみたけど、思ったより大変だった」「フリーランスの方が気楽」という声が増加傾向にある。
- ・「開業＝成功」ではなく、「開業しない方が安定」という選択肢も現実的に受け入れられている。



理美容業界、キャリア選択の転換期へ

数字だけを見れば、理美容業界の開業数は減少傾向にあります。しかし世の中では、フリーランスやシェアサロンといった新しいスタイルで「独立」する美容師が増加しています。

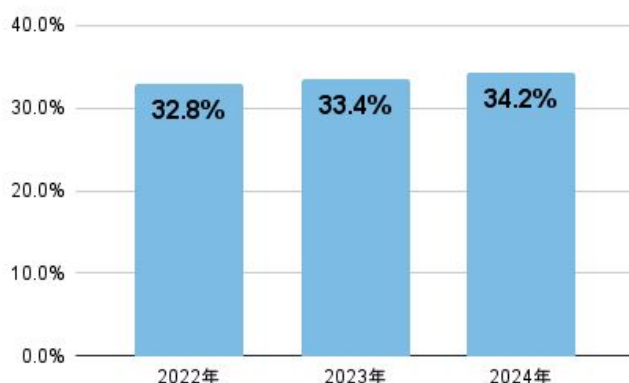
店舗を持たずにキャリアを築く、“新しい独立”のかたち。統計に表れない“理美容業界のリアル”に注目していきましょう。

男性も“美”を選ぶ時代 メンズ美容の今とこれから



男性の美容意識は本当に高まっているのか？

男性理美容院利用率



2024年/年代別利用率



出典: ホットペッパービューティーアカデミー

1, SNS・YouTube・メディアの影響

- 美容系YouTuberやTikTokで、スキンケアやヘアスタイリングの情報が身近に。
- 「メンズメイク」や「眉毛サロン」のハードルが低下。

2, ビジネスシーンでの“清潔感”を重視

- オンライン会議の普及で「顔の印象」が重要に。
- 第一印象の良さ＝評価に繋がる時代になり、スキンケアや髪型に気を使う男性が増加。

3, サービスの多様化と入りやすさ

- 「メンズ専門美容室」「眉毛サロン」など、男性に特化した店舗が急増。
- 初心者でも入りやすい空気感と導線設計が進んでいる。

4, Z世代・若年層の価値観の変化

- 美意識を持つことが“普通”とされる世代へ。
- 性別によらない「自分らしい見た目の追求」が進み、パーソナルカラーなどの関心が高い。

男性の美容意識は年々高まり、特化型サロンや気軽に通えるサービスの増加がその流れを後押ししています。美容を取り入れることが、特別ではなく日常的なものになりつつあります。今後もこの意識はさらに広がり、メンズ美容市場の拡大が期待されることでしょう。

理容・美容開業数半年比較 ～地方開業の隠れた魅力～



全国の理美容店開業数の半年での変化

全国の理美容店の開業数を都道府県別にして、
2024年7月～9月と半年前の2024年1月～3月で比較を行いました。

全国の開業数、半年で減少。—— 数字から見える業界の未来

2024年7月～9月の全国の理美容店開業数は1,518件。
これは半年前(2024年1月～3月)の1,872件から約350件の減少となり、
理美容業界全体としても開業数は減少傾向にあります。

しかし、地域別に見てみると少し違った景色が見えてきました。
東京・大阪などの都市部では開業数が減少している一方で、石川・岐阜といった地方都市では、
決して件数は多くないものの、開業数が増加するという逆の動きも見られました。
全国的な“減少トレンド”の中で、地方ではなぜ開業が増えているのか——。

詳細な開業数は以下となります。

2024年1月～3月		2024年7月～9月		増減	差異						
都道府県	開業数	都道府県	開業数								
全国ALL	1,872	全国ALL	1,518		-354	24	岐阜県	25	24	宮崎県	18 ↑ 2
1 東京都	240	1 東京都	228 ↓	-12		25	山口県	24	25	大分県	16 ↓ -5
2 大阪府	173	2 大阪府	142 ↓	-31		26	奈良県	21	26	群馬県	15 ↓ -20
3 愛知県	132	3 愛知県	85 ↓	-47		27	大分県	21	27	香川県	15 ↓ -3
4 神奈川県	100	4 神奈川県	84 ↓	-16		28	愛媛県	21	28	青森県	15 ↑ 3
5 福岡県	94	5 北海道	71 ↑	8		29	富山県	18	29	長崎県	14 ↓ -16
6 兵庫県	85	6 埼玉県	69 ↓	-7		30	青森県	18	30	滋賀県	14 ↑ 5
7 埼玉県	76	7 兵庫県	68 ↓	-17		31	高知県	17	31	奈良県	13 ↓ -14
8 千葉県	64	8 福岡県	52 ↓	-42		32	宮崎県	16	32	三重県	13 ↓ -8
9 北海道	63	9 千葉県	43 ↓	-21		33	熊本県	16	33	福島県	12 ↓ -12
10 静岡県	54	10 静岡県	43 ↓	-11		34	和歌山県	15	34	山口県	12 ↓ -1
11 長野県	45	11 沖縄県	36 ↑	5		35	佐賀県	15	35	島根県	12 ↑ 8
12 茨城県	41	12 岐阜県	35 ↑	10		36	福井県	14	36	和歌山県	10 ↓ -11
13 広島県	38	13 宮城県	31 ↓	-2		37	福島県	13	37	山形県	10 ↓ -6
14 岡山県	38	14 京都府	30 ↓	-15		38	香川県	12	38	福井県	10 ↓ -5
15 群馬県	35	15 長野県	30 ↓	-4		39	鳥取県	12	39	徳島県	10 ↓ -4
16 京都府	34	16 鹿児島県	28 ↓	-3		40	岩手県	11	40	熊本県	10 ↓ -2
17 宮城県	33	17 栃木県	28 ↑	1		41	徳島県	11	41	鳥取県	10 ↓ -1
18 栃木県	31	18 茨城県	25 ↓	-16		42	秋田県	11	42	愛媛県	10 ↑ 1
19 沖縄県	31	19 広島県	24 ↓	-14		43	山梨県	11	43	佐賀県	9 ↓ -6
20 滋賀県	30	20 岡山県	24 ↓	-14		44	山形県	9	44	岩手県	8 ↓ -3
21 新潟県	28	21 新潟県	24 ↓	-4		45	長崎県	9	45	秋田県	7 ↓ -4
22 鹿児島県	27	22 石川県	23 ↑	14		46	石川県	9	46	高知県	6 ↓ -11
23 三重県	27	23 富山県	21 ↑	3		47	島根県	4	47	山梨県	5 ↓ -6

↑ ↓ は前期からの開業数の増減を示しています。

減少トレンドの裏で、数字に隠れた開業の動き

増加の理由はどこに？ 開業数が伸びた地域の共通点

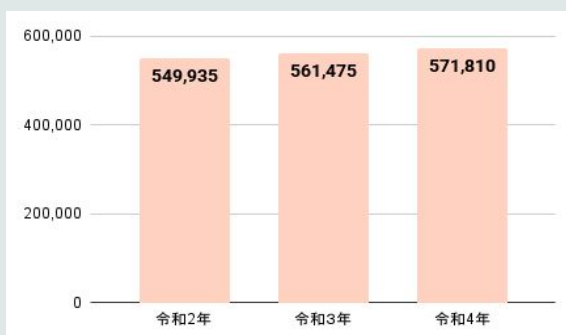
半年の開業数の変動を都道府県ごとに見てみました。
以下は、開業数が増加した都道府県トップ3です。

開業数が増えたトップ3				
	都道府県	1月～3月	7月～9月	差異
1	石川県	9	23	+14
2	岐阜県	25	35	+10
3	北海道	63	71	+8
3	島根県	4	12	+8

これまでの、全国飲食レポートからも読み取れるように、石川県と北海道は飲食業界・理美容業界ともに、地方の中でも“開業の活発さ”が際立つエリアです。
都市部とは異なる“地域に根ざした独立”が選ばれやすい傾向が見られます。



都市部の開業数が増えないのはなぜ？



出典：理容師美容師試験研修センターHP

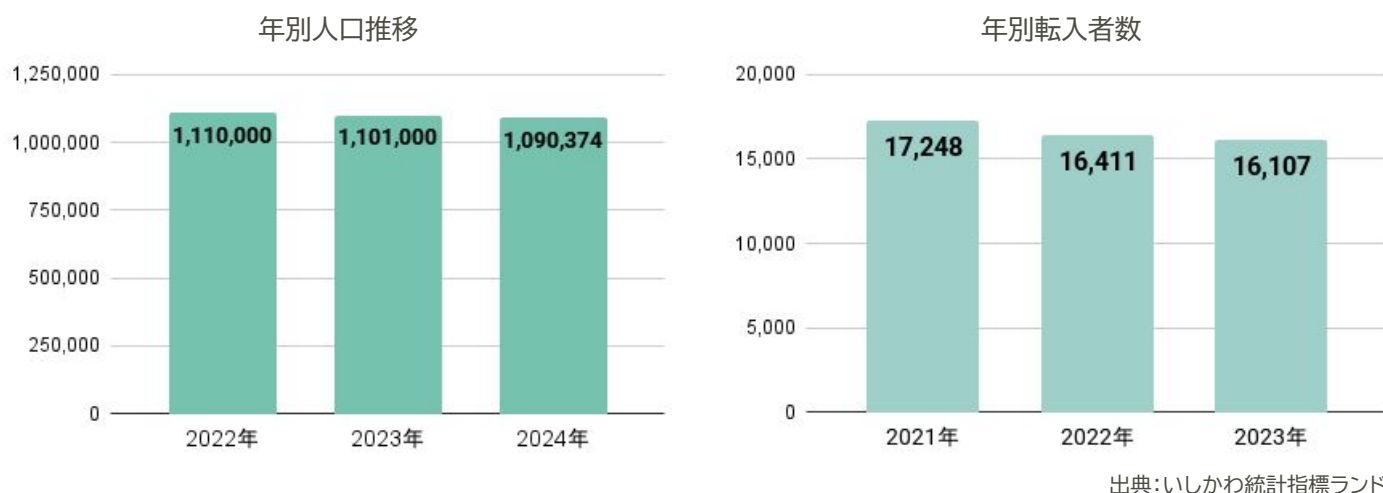
都市部ではすでにサロンが飽和状態にあり、価格競争や差別化の難しさが開業のハードルを高めています。

そのため、美容師率は年々増加傾向にありますが、「自分の店を持つ開業」から「フリーランスで活動する」へと、美容師を目指す理由が変わりつつあるのです。

「地元で始める」が選ばれる時代に

1 石川県

石川県は、前回の飲食店レポートでも開業数順位向上ランキング1位にランクインしており、その勢いは理美容業界にも広がっています。近年では、金沢市を中心に、観光地・移住先としての注目度が上昇しており、都市機能と自然・文化が共存する“おしゃれな地方都市”としての評価が広がっています。では、人口の推移をもとに、石川県の動向を詳しくみてみましょう。



人口減＝開業減ではない、地方都市の開業エネルギー

人が減る街で、なぜ“店”は増えるのか？

石川県ならではの開業トレンドには、どのような背景があるのでしょうか。

1, 支援制度・インフラの強化

- 県・市町村による手厚い創業補助金やサポート体制が充実。
- 能登地震後、被災地再生に向けた開業・復興支援金制度などもあり、起業のハードルが低下。

例：移住・起業支援金制度 / 起業促進補助金 / 小規模事業者持続化補助金

2, 小規模&地域密着型の開業がしやすい

- 人口密度が高すぎない分、固定費が安く抑えられ、ミニマムに運営しやすい。
- 理美容・飲食ともに、自宅兼店舗や一人開業など「等身大のビジネス」が成立しやすい環境。

3, 観光地としてのブランド強化

- 北陸新幹線の延伸などにより、金沢を中心に観光地としての注目度が急上昇。
- 旅行者向けのカフェや美容サロン(着付け・ヘアセット等)など、観光とセットの業態が成立しやすい。

「開業しやすい条件が揃っているか」が増加の要因になっているようです。

「地元で始める」が選ばれる時代に

2 岐阜県

岐阜県は名古屋に近い立地を活かしながら、家賃や物価が比較的安価なため、開業コストを抑えやすい環境が整っています。

住宅街に根ざした自宅兼サロンや小規模店舗での開業がしやすく、固定費を抑えたミニマム運営が可能です。そのため、「大きく広げる」よりも、地元で長く安定して続けていくという志向の開業スタイルが増加していると考えられます。

【支援制度例】

- 岐阜県スタートアップ企業支援補助金
- スタートアップ支援補助金
- 高山市特定創業支援事業補助金

3 北海道

札幌市では、都市機能の充実と郊外の開業コストの低さが両立しているため、理美容業の開業環境が非常に魅力的です。さらに、インバウンド需要や観光業の復調に伴い、都市部での美容需要が再び活性化傾向にあります。一方で、Uターンや地元密着型のサロン出店も目立ち、地方都市では1人開業がに進行していると考えられます。

【支援制度例】

- 北海道地域資源活用起業支援補助金
- 北海道商工会連合会による創業支援プログラム
- 女性起業家支援制度(札幌市)

3 島根県

全国的に見ると開業数が少ない県であるため、少数の新規開業でも統計上は大きな変動として表れますが、地域住民の暮らしに根ざした地元密着型のニーズは着実に存在しており、競合が少ない「空白エリア」を狙ったピンポイント出店が可能な県とも言えます。

また、U・Iターンを促進する施策が充実しており、地方創生に関わる各種補助金の対象地域でもあることから、開業を後押しする環境が整っています。

【支援制度例】

- 島根県創業支援事業
- 島根県中小企業融資制度

地方でのんびり自分らしく。広がる新しい働き方

いろんな変化が起きている理美容業界。

データを見ていくと、意外な場所で開業が増えていたり、働き方が変わっていたり…。

そこには新しい価値観がありました。ポイントを、まとめてご紹介します。

1, 都市部から地方への分散・回帰

- コロナ以降、地方移住やUターン・Iターン支援が活発化している。
- 都市部の過密・高コストを避けたライフスタイル志向が広がりつつある。

2, 空き物件活用・補助金支援の充実

- 地方ではテナント家賃が安く、開業コストが抑えられる。
- 商工会・自治体が手厚い開業補助金を出しているケースも多い。



3, 地域密着&ライフスタイル型の開業

- SNS集客の浸透により、立地に依存せず個人ブランドで勝負できる時代になってきている。
- 都会的なサロン体験を「地元で提供」したい層が増えてきている。

4, 拡大しない“ミニマム独立”の選択肢

- 「自宅兼サロン」や「一人サロン」といったミニマム開業がしやすい。
- 人材確保の難しさから、「大きくしない＝失敗しにくい」開業スタイルが支持されている。

地方で、無理なく・小さく始める独立

家賃の安さや自治体の補助、地域とのつながりを活かした働き方など、都市部にはない魅力が地方にはあります。また、フリーランスや一人サロン、シェアサロンといった柔軟な働き方が浸透した今、「拡大しない独立」がより現実的な選択肢になっています。

地方開業というキャリアの可能性に、改めて目を向けてみましょう。

理容所・美容所別の半年での変化 ～データで見る地域のリアル～

理美容業別開業数と理容所割合の半年での変化

2024年1月～3月／7月～9月の半年間の

全国の理容所/美容所別の開業数、そして理容所の割合を比較してみました。

都道府県	2024年1月～3月			2024年7月～9月		
	美容所	理容所	理容割合	美容所	理容所	理容割合
全国ALL	1701	171	10.1%	1387	131	9.4%
1 東京都	220	20	9.1%	208	20	9.6%
2 大阪府	159	14	8.8%	131	11	8.4%
3 愛知県	128	4	3.1%	80	5	6.3%
4 神奈川県	95	5	5.3%	80	4	5.0%
5 兵庫県	77	8	10.4%	62	6	9.7%
6 北海道	52	11	21.2%	59	12	20.3%
7 埼玉県	66	10	15.2%	59	10	16.9%
8 福岡県	89	5	5.6%	46	6	13.0%
9 千葉県	56	8	14.3%	42	1	2.4%
10 静岡県	50	4	8.0%	41	2	4.9%
11 岐阜県	24	1	4.2%	34	1	2.9%
12 沖縄県	26	5	19.2%	31	5	16.1%
13 長野県	42	3	7.1%	30	0	0.0%
14 宮城県	27	6	22.2%	28	3	10.7%
15 京都府	34	0	0.0%	27	3	11.1%
16 栃木県	30	1	3.3%	26	2	7.7%
17 鹿児島県	21	6	28.6%	25	3	12.0%
18 茨城県	35	6	17.1%	25	0	0.0%
19 新潟県	23	5	21.7%	24	0	0.0%
20 岡山県	35	3	8.6%	24	0	0.0%
21 石川県	9	0	0.0%	23	0	0.0%
22 広島県	36	2	5.6%	20	4	20.0%
23 富山県	17	1	5.9%	18	3	16.7%
24 宮崎県	16	0	0.0%	18	0	0.0%
25 長崎県	7	2	28.6%	14	0	0.0%
26 大分県	21	0	0.0%	13	3	23.1%
27 香川県	12	0	0.0%	13	2	15.4%
28 群馬県	29	6	20.7%	13	2	15.4%
29 滋賀県	28	2	7.1%	13	1	7.7%
30 奈良県	18	3	16.7%	12	1	8.3%
31 三重県	22	5	22.7%	12	1	8.3%
32 鳥根県	3	1	33.3%	11	1	9.1%
33 青森県	18	0	0.0%	10	5	50.0%
34 福島県	11	2	18.2%	10	2	20.0%
35 山口県	20	4	20.0%	10	2	20.0%
36 福井県	14	0	0.0%	10	0	0.0%
37 鳥取県	12	0	0.0%	10	0	0.0%
38 熊本県	15	1	6.7%	10	0	0.0%
39 山形県	7	2	28.6%	9	1	11.1%
40 佐賀県	13	2	15.4%	9	0	0.0%
41 和歌山県	11	4	36.4%	8	2	25.0%
42 愛媛県	19	2	10.5%	8	2	25.0%
43 岩手県	8	3	37.5%	8	0	0.0%
44 徳島県	10	1	10.0%	7	3	42.9%
45 秋田県	8	3	37.5%	7	0	0.0%
46 高知県	17	0	0.0%	6	0	0.0%
47 山梨県	11	0	0.0%	3	2	66.7%

※2024年7月～9月の美容所の開業数が多い順に表記しております。

地方で進む“理容所回帰”の背景

都市部とは対照的に、一部の地方では“理容所の比率”が上昇していることが判明しました。以下は、半年前より理容所の割合が20%以上増加した都道府県です。

理容所割合が増えた都道府県				
	都道府県	1月～3月	7月～9月	増加
1	山梨県	0%	66.7%	+66.7%
2	青森県	0%	50%	+50.0%
3	徳島県	10%	42.9%	+32.9%
4	大分県	0%	23.1%	+23.1%

47都道府県のうち、4県が20%以上増加していることが分かりました。件数は少ないながらも、美容所より理容所を選ぶ傾向が強く表れた地域といえます。

「なぜ今、地方で理容所の存在感が増しているのか？」

都市部とは異なるニーズと環境が存在していることが分かりました。そこには、“地域に根ざした役割”を果たす理容所の姿がありました。



都市部の理容所の割合が10%を切っている？



都市部では、理容所の割合が10%以下をキープしている地域がほとんどでした。これは、都市ならではのライフスタイルや美容ニーズの変化が背景にあるようです。

- 美容ニーズの多様化と若年層の“美容室志向”
- 女性中心の市場構造へのシフト
- 出店・運営コストの高さ
- 事業承継の難しさと同齢化
- “美容室で髪を切る男性”が当たり前に

地方で進む“理容所回帰”の背景



地方で理容所の割合が増えている理由



高齢者の多さと定期的ニーズ

地方では都市部と比べて高齢化率が高く、高齢男性を中心に「顔剃り＋散髪」といった昔ながらの理容サービスを定期的に利用する文化が根強く残っています。

特に車移動が必須となる地域では、「近所に理容室があること」が生活の安心材料となっており、定期的な利用ニーズが途切れにくい傾向があります。



自宅兼店舗での“ミニマム開業”がしやすい

地方は地価や家賃が比較的安いいため、自宅を一部改装して理容所を開業するケースが多く見られます。理容業は美容業に比べて必要な設備や施術がコンパクトで済むこともあり、小スペース・少人数での運営がしやすい業態です。

「大きくしない・広げない」スタイルとの相性もよく、一人経営のサロンが定着しやすい地域性も後押ししています。



地域密着での“生活インフラ”化

地方では交通インフラが限られているため、生活圏内でサービスを完結させるニーズが強くなります。理容所はコンビニや病院のように、日常生活を支える“生活インフラ”としての役割を担う存在です。地域の顔見知りの理容師から受けるサービスは、高齢者にとって安心感があり、継続的な利用につながっています。



家業・跡継ぎとしての継承文化

地方には、理容所を家業として継承している家庭が今も一定数存在しています。親の店を子が継ぐといったパターンや、定年退職後に夫婦で理容所を営むといった“セカンドキャリア開業”も見られます。こうした文化が、地方における理容所の継続・増加の背景となっているのです。

全国理美容開業レポート ver2 まとめ

全国理美容開業レポート ver2 まとめ

データだけでは見えない選ばれる働き方、キャリアが広がる時代に

2024年に入り、理美容業界の開業数はデータの通りに減少傾向にあります。
このレポートでは、全国的な開業数の減少、都市部と地方での違い、そして独立スタイルの多様化について見てきました。

「どのくらいの間隔でヘアケア行ってる？」

かつて、理美容院は「髪を切る場所」「身だしなみを整えるための場所」として利用されてきました。しかし今では、自己表現・ブランディングをする場所・気分を切り替える“メンタルケア”の場所など、ありのままの自分を受け入れてもらえる場所として、一種の信頼や安心感が築かれています。

今、理美容の現場は、ただのサービス提供を超えて、“自分らしさ”や“心の居場所”をつくるための小さなコミュニティとしての役割を担い始めています。

「この人に切ってもらいたい」「この空間が心地いい」

理美容所は減っても、“美を求める意識”は確実に広がっています。
開業数の統計だけを見れば、理美容業界は縮小傾向にあるようにも見えます。
しかしその一方で、美容サービスを利用する人は増え、特に男性の美容意識やセルフケアへの関心は年々高まっています。

「お店を持つ＝独立」という時代から、場所やかたちに縛られない新しいキャリアのかたちへ。
今、数字では測れない“選ばれる働き方”が静かに広がっているのです。

美容が日常に _____

サロンは“特別な場所”から“日常のパートナー”へ _____



全国理美容開業レポート ver2 まとめ

ー 開業数は減っても、理・美容師の選択肢は減っていない ー

お店を持たなくても、都市に住んでいなくても、理容師・美容師としての道は選べる時代。開業数が減っているのは、“選択肢が減った”のではなく、“選び方が増えた”ということなのかもしれません。

自分のスタイルで、自分らしく働き、自分のペースで美を届けていく。
そんな“自由な美容”のかたちが、少しずつ広がっています。

誰かの“やってみよう”が、またひとつ、新しい働き方やサロンの形を生み出していくのではないのでしょうか。

“どこで、誰に、どんなふうに届けるか”を自由に選べる時代 ——

お店の数が減っても、美容師・理容師の存在価値はむしろ広がっています。

店舗を構えなくても、お客様とつながり、信頼を築くことができる今、サロンの価値は“物理的な空間”から“人と人との関係性”へと移り始めています。

技術や知識だけでなく、“その人らしさ”が光る場所。

場所や規模に縛られない働き方と、「個」を軸にしたサービスが、これからの時代に求められるサロン像なのかもしれません。

Reviewは、これからもリアルタイムデータを様々な視点から読み解きながら、理美容業界で働く皆さまの挑戦と変化を見つめ続けてまいります。

このレポートが、地域や時代によって変わりゆく“働き方”や“サロンのかたち”への理解を深める一助となり、これからの業界の活性化と可能性の広がりに少しでも貢献できれば幸いです。

【データ・レポートに関するお問い合わせ】

株式会社Review(リビュー) 広報
担当: 安川
E-mail: yasukawa@re-view.co.jp
TEL: 06-7730-9109

Re:view